

「ご当地キャラの聖地・彦根」から、日本中へ笑顔発信！



キャラも、人も、受け入れられる場所 **ご当地キャラ博**

毎年10月中旬に開催され、全国各地から個性あふれるキャラクターが集まり、多くの来場者で賑わう「ご当地キャラ博」はひこにゃんを象徴するイベントのひとつです。2008年に彦根で誕生し、今では全国のご当地キャラファンにとって特別な場所となっています。

そんな一大イベントを支える中心人物の一人が、立役者である荒川さんです。「彦根市民が誇りに思えるイベントになってほしいし、市外の方には、彦根とご当地キャラの魅力を知るきっかけになってほしい」そんな思いを胸に、全国の自治体にアプローチをしたんだとか。

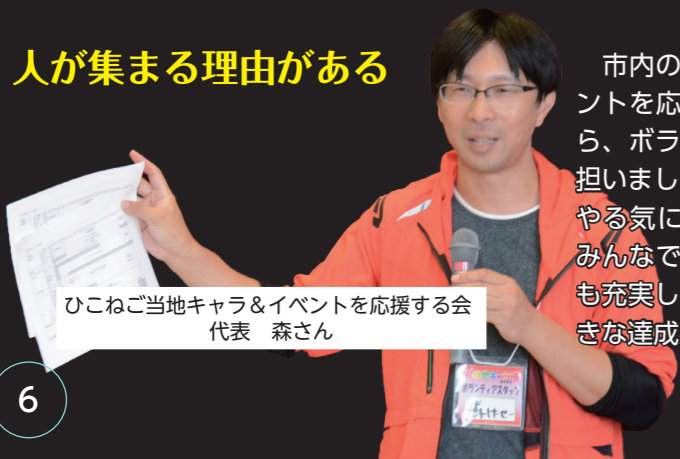
また荒川さんには「見るイベントよりも、共に作るイベントを」との思いがあり、ボランティアの参加を大事にされています。イベント当日だけでなく、前日準備や事前の打ち合わせまで、ボランティアの皆さんと共に奔走されました。近年は毎年約60人のボランティアが全国から集まり、現場の運営を担っています。

誇りの持てるイベントに



ご当地キャラ博 in 彦根実行委員会 代表 荒川さん

人が集まる理由がある



ひこねご当地キャラ&イベントを応援する会 代表 森さん

市内の社会福祉法人に勤める森さんは、ひこねご当地キャラ&イベントを応援する会の代表を務めます。自身もボランティアでありながら、ボランティアの募集から運営説明会、イベント当日の全体統括を担いました。「ボランティアにまかせてもらえる部分が大いからこそ、やる気につながります。応募される人のきっかけはさまざまですが、みんなで協力し、来場者に楽しんでもらうために汗を流すのは、とても充実した時間ですし、終わったあとに「また参加したい」と思える大きな達成感につながっています。」



▲ 枚方市のみっけちゃん和滋賀大学のカモンちゃん。出身地の離れたキャラ同士の絡みは、キャラ博ならではの魅力です。



▲ 茶の湯で来場者におもてなしをするひこにゃん

輝くボランティアたち

見たいんよ、来場者の笑顔。



夢京橋キャッスルロードエリア 統括 林さん

運営リーダー 平野さん

ボランティアが運営に携わった初回から参加されているという井上さん。子どもから大人まで、キャラと関わって笑顔になる来場者の姿を見ると、やめられないんだとか。13回目の参加だという林さんと、運営リーダーの平野さんとともに、例年の来場者やキャラの動線を考慮しながら、スタッフの配置を検討されました。

みんな楽しそう！
でも僕が一番楽しいかも(笑)



ブース設営リーダー 足立さん



京橋口駐車場エリア 統括 井上さん

▶ 2016年、当時大学生としてボランティアに参加された足立さん。社会人になり、遠方にお住まいですが、今でも、継続して参加されています。



▲ 滋賀大学と滋賀県立大学の学園祭の実行委員の皆さんも運営に参加されます。この経験が、学園祭の運営にも活かされるんだとか。



▲ 会場の清掃活動をしたのは、滋賀県立大学の「廃棄物バスターズ」の皆さん。来場者にごみの分別の啓発も行いました。

共につくる喜び、広がるまちの楽しさ

ご当地キャラ博を支えるのは、多くの人の「彦根をもっと好きになってもらいたい」という気持ちの積み重ねです。たくさんの来場者の笑顔の裏には、そんな思いを持ち、全国から集まった人々が丸となり、作り上げた温かな舞台がありました。その光景に惹かれ、全国からまた新しい仲間が集まり、次の年へとつながっていく。ひこにゃん誕生から20年。いつしかキャラ博は「人とまちとをつなぐひこにゃんの原点」を映す場となりました。来場者の歓声、ボランティアの笑顔、そしてひこにゃんの穏やかなまなざし。そのすべてが、まちを思う心によって育まれています。これからもひこにゃんとともに、彦根は多くの人に愛されるまちとして歩み続けていきます。